

第1 平成20年度当初予算の概要

予算はどのような考えで編成したのですか。 - 予算編成の基本方針 -

平成20年度の地方財政計画では、特別枠として「地方再生対策費」が創設され、実質交付税が5年ぶりに増加するなど前年度を上回る一般財源総額が確保されましたが、特別枠の総額は4,000億円にすぎず、平成16年度に実施された交付税の大幅削減が全国で約3兆円、本県では224億円であることを考えると、交付税の大幅削減が本県財政に与えた大きな影響は依然として残っています。

また、「財政の中期見通し」でお示ししたとおり、本県財政は、退職手当、社会保障関係経費、公債費などの義務的経費の増加により、退職手当債の発行、公債費の償還期間の延長といった負担の平準化対策を行ったうえでも、平成19年度以降の5年間累計で740億円程度の収支不足が発生するという、極めて厳しい状況にあります。

平成20年度当初予算につきましては、こうした財政状況を踏まえ、昨年3月に策定した「行財政改革大綱2007に基づき行財政改革を着実に実施する予算」として、職員費の削減をはじめ、これまでの取り組みをさらに深く掘り下げることといたしました。

同時に、昨年3月に改定した新長期構想に掲げる8つの重点戦略を着実に具現化していく「新長期構想の実現に向けた取り組みを本格化・加速させる予算」として編成しました。能登半島地震からの復興のほかに、特に、医師確保、地球温暖化防止、少子化対策など広い意味での県民の安全・安心に関わる施策に重点的に取り組むとともに、人やモノの交流の拡大、文化と学術の地域づくりなど、交流を盛んにし、本県の魅力に磨きをかける施策や、元気な産業の創出、地域主導の地域づくり、こころ豊かな人づくり、魅力ある農林水産業づくりなどにも積極的に取り組み、編成したものです。

《新長期構想の8つの重点戦略》

「魅力と誇りが実感できるいしかわ」(地域)

- ・ 交流が盛んな特色ある地域づくり
- ・ 個性を活かした文化と学術の地域づくり
- ・ 自律した持続可能な地域づくり

「活力ある産業と働きがいを感じるいしかわ」(産業)

- ・ 競争力のある元気な産業づくり
- ・ 魅力ある産業としての農林水産業づくり

「暮らしやすさが実感できるいしかわ」(暮らし)

- ・ 安全でうるおい豊かな環境づくり
- ・ みんなで支える安らぎのある社会づくり
- ・ 未来を拓く心豊かな人づくり

ひとくちメモ

地方財政計画

国が作成する翌年度の全国の地方公共団体全体の歳入歳出総額の見込額に関する計画のことをいいます。

地方財政計画には、

- 地方交付税を通じて地方財源を保障
- 地方財政と国家財政・国民経済等との調整
- 個々の地方公共団体の行財政の運営指針

という役割があります。

(参考) 地方財政計画 (歳入)

(単位: 億円、% 印減)

	H20	H19	増減	増減率
地方交付税	154,061	152,027	2,034	1.3
臨時財政対策債	28,332	26,300	2,032	7.7
小計(実質交付税) +	182,393	178,327	4,066	2.3
地方税	404,703	403,728	975	0.2
地方譲与税	7,027	7,091	64	0.9
地方特例交付金等	4,735	3,120	1,615	51.8
国庫支出金	100,831	101,739	908	0.9
地方債 (臨時財政対策債を除く)	67,723	70,229	2,506	3.6
その他	66,602	67,027	425	0.6
計	834,014	831,261	2,753	0.3

(参考) 地方債計 +	96,055	96,529	474	0.5
一般財源 + + + +	598,858	592,266	6,592	1.1

(注) 地方財政計画は都道府県分と市町村分を合わせた全地方公共団体ベースの数値です。



いしかわ総合スポーツセンター(平成20年4月開館)